

八幡平の四季を地熱蒸気染色で伝えたい

八幡平地熱蒸気染色作家

高橋 一行さん

たかはし・かずゆき 44歳 松川温泉



昭和48年生まれ。幼少の頃から母親の地熱蒸気染色活動を見て育つ。父が経営する地熱染色研究所に入社。地熱蒸気染色活動作家として活動を始める。写真や登山、スキーが趣味で、自然との触れ合いが作品作りにも生かされている。

八幡平ドラゴンアイをモチーフにしたハンカチとミニスカート、Tシャツをデザインした八幡平地熱染色研究所の高橋一行さん。「この新商品で十和田八幡平国立公園をもっと盛り上げていきたい」と目を輝かせます。

高橋さんは、母親の地熱蒸気染色活動を見て育ちました。父が経営する八幡平地熱染色研究所に入社。両親とともに同活動に取り組んできました。地熱蒸気を使った染色方法は、その時の温泉の成分や気象条件、そして人の手による絞り作業や染料を浸す順番、蒸す時間などによって仕上がりはさまざま。染料の調合や生地によっても色合いは変わるので、出来上がった作品は一点物となります。「地熱蒸気染色の作品は一期一会。同じ物にはならないんです。でも商品となると、決まったデ



体験教室参加者に地熱蒸気染色の技法を分かりやすく教える高橋さん(4月22日、地熱蒸気染め工房夢蒸染)

ザインに限りなく近くなるように染めなければならぬ」と染色の難しさを語ります。多くの人に八幡平を訪れてほしいと願い「これまで扱ってきた紅葉の濃い色彩とは違った、桜や残雪、新緑などの春の淡い色彩にも挑戦し、八幡平の四季の素晴らしさを伝えたい」と意欲を示しました。地熱蒸気染め工房夢蒸染の隣りには、両親が喫茶・ペンション「アルペンローゼ」を営み、軽食のほか高橋さんの作品も見ることが出来ます。

編集後記

▽道の駅にしねで開催された「一升餅を背負って歩こう」を取材しました。餅を背負って泣きながら歩く子や軽々と背負って堂々と歩く子など、一人一人に個性があつて面白く、応援する家族の姿は温かくて、見所たくさんさんのイベントでした。また来年も楽しみです。



名護市の派遣職員、池間正剛さん(右端)とその家族

▽西中男子駅伝メンバーの皆さん、盛岡市内一周継走優勝おめでとうございます。そして、女子メンバーの皆さんも4位入賞おめでとうございます。去年、男子準優勝で1位だったので、今年は見開きで選手を紹介させていただきます。▽記事の中でも紹介しましたが、選手はみな、それぞれの部活に所属しています。6月16日から18日は地区中総体。本業でも皆さんの活躍を期待しています。▽個人的には、市役所サッカー部のライバル(勝手に呼んでるだけです)が...であり、駅伝のメンバーも所属している西中サッカー部、応援しています。▽サッカーといえば、4年に1度のW杯がいよいよ開幕。寝不足になるか否か、全ては初戦のコロンビア戦(6月19日)次第です。頑張れニッポン! (多)